

# セルフモニタリング報告書（令和6年度分）

令和 7 年 4 月 22 日

施設名：福祉ふれあいセンター

指定管理者名：労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

所管課名：福祉部 障がい福祉課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価				
<b>1 事業計画の達成度</b>						
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	ほぼ適切に行った。	A	B	C	D	E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	利用者数。利用回数共に前年を上回った。	A	B	C	D	E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。		-	-	-	-	-
自主事業は計画どおり行われたか。	計画どおりには進まず、内容変更となったケースもある。	A	B	C	D	E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	イベント等の開催により多方面の組織、団体との連携を図り、交流の場を積極的に提供した。	A	B	C	D	E
<b>2. 利用者の満足度</b>						
利用者の満足が得られているか。	アンケート結果では職員の対応において満足・やや満足で90%を超えている。	A	B	C	D	E

利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	意見箱の設置やアンケート調査を実施し、窓口業務での利用者からの生の声を最大限に活用している。	A	B	C	D	E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	謙虚に受け止め、迅速に対応し、改善を行った。	A	B	C	D	E
<b>3 管理運営の効率性</b>						
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	特に水道光熱費に関して省エネ診断による提案を受け、実現可能な対策から実施している。	A	B	C	D	E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	相見積りのもとで適切に判断し、節減意識を職員間で共有した。	A	B	C	D	E
収入増加のための取組はされているか。	生活介護においては見学等の受け入れを積極的に行った。	A	B	C	D	E
<b>4 適正な管理運営</b>						
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	社内の講習も含め、積極的に研修に参加した。	A	B	C	D	E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	避難訓練等を定期的に行い、日頃より非常時への備えを喚起した。	A	B	C	D	E
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正な人員配置を行った。	適		不適		

<p>施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。</p>	<p>定める基準に従い、適切に処理した。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。</p>	<p>適正に管理した。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。</p>	<p>複数体制で適正に行った。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。</p>	<p>適正に実施した。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>書類・備品等の管理は適正に行われているか。</p>	<p>適正に管理した。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p>法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。</p>	<p>適正に管理した。</p>	<p>適</p>		<p>不適</p>		
<p><b>5 地域貢献</b></p>						
<p>雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。</p>	<p>地元企業と取引している。</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>

- A：目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B：目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C：概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D：目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E：目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

## 総合評価



【★の数が5～0の6段階評価で評価しています。】

### 〈 4 適正な管理運営において不適がある場合、その理由と今後の対応について 〉

#### 指定管理者の自己評価（全体を通して）

貸館利用回数は前年を159回上回る2,576回で、利用人数も前年を大幅に上回る19,201人となりました。登録団体も前年より12件増加したこともあり、必然的に貸館要請の機会が増える状況となっています。特に体育館利用に関しては前年と比較すると利用回数で約100回、利用者数で約2,900人と圧倒的に需要が伸びています。団体・サークルによる大規模なイベントが開催されるようになり、恰好の場所として認知されつつあることが最大の要因ではないかと考えています。これもひとえにふれあいセンターの施設としての関心の高まりを表す結果で、日頃の職員の利用者様からの信頼の証と自負しています。

アンケート結果では、「職員の対応に満足」の項目で満足とやや満足で90.4%、「施設の運営について」の項目で満足とやや満足で86.2%と前年同様の87.4%、81.4%を上回り、高い評価を頂く結果となっています。

また、昨年末には省エネ診断を関係機関に要請し、設備の設定の見直しや改善策等の提案を受けて取り組み始めたところで今後より一層の節減対策を実践していく所存です。

また、自主事業においては、年間の大イベントであるふれあいセンターまつりで500人もの地域住民や障がいをお持ちの方、そのご家族や団体・サークル・ボランティア活動を実践している方々を一堂に会して盛大に行われたものの、年間を通じて計画通りに実施できず、変更を余儀なくなったケースもあり、改めて企画、立案、告知等の難しさを思い知らされた気がします。

次年度はこれまでの反省を生かし、地道に確実な一歩を踏み出せる体制を構築していく所存です。

今後も発達支援課様、呼吸器内科クリニック様、あさひ様と連携して障がい者や地域住民、団体・サークル等との相互理解を深め、地域の拠り所として多くの方々から期待される施設へと発展するよう業務に専念していきます。